

(別紙)

第2次審査応募様式

No. 1 (1次No.5) (事務局用)

教育改善提案計画調書

所属学科名 (または所属課又は団体名) 薬学科

応募者氏名(代表者氏名) 郡山 恵樹

(注) 枠は適宜移動して下さい。ただし全体でA4で2枚までとします。
記述は12ポイントでお願いします。

1. 提案名	エンパろう！喜怒哀楽！！
2. 目的と効果など	<p>目的: 「エンパる」は「共感(Empathy)」から連想した造語である。「喜怒哀楽」感情の「共感」は仲間意識を育み、友情を創る。また、お互いの「共鳴」の時間・程度が長い・強いほど増幅された深い友情が築ける。本提案では、「喜怒哀楽」を共感させることで効率的に広く深い人間関係の絆を強め、結束力の高い仲間意識を構築させることで小グループ討論などの円滑化、学習の質の向上、大学の活性化を目的とし、チーム医療の中でリーダーシップのとれる「話せる医療人」育成に寄与するものである。</p> <p>効果: 本提案の実施により人間関係の新発見や再確認ができ、人間性の相互理解へのきっかけを増やす。また、小グループ討論の前に本提案を実施することで個人発表のみならず相互討論も円滑になることが期待できる。特に学生への効果として、短時間で自分のエピソードを話す練習をすることで、ストーリー構成力、積極性、文章力、観察力、自信、責任感、コミュニケーション能力などが養われる。また、将来の職業体験へのアーリーエクスポージャー効果も期待でき、円滑な学外実習やより質の高い職場への就職が可能となる。一方、教職員および大学への効果として、学生の健康・精神面や友好関係のチェックが可能であるとともに次世代リーダーの発掘も可能である。また、学生同士の深い絆の構築は学生満足度や学生意識の向上につながり、出身高校や地域社会へのプラス情報の発信が増加され、入学志願者の増加や新たな層の入学者確保につながる。さらには留年・退学者減少、国家試験合格率の上昇、教員の研究活動力上昇による論文数・特許数・助成金獲得件数の増加と大学のグローバル化につながる。</p>